

一般質問

12月10日、4名が登壇
市政を問う



議会の様子は「YouTube」で
配信されています。

一般質問

- ・御前崎港活性化について
- ・ゼロカーボンシティ宣言への
取組について



河原崎恵士

問 観光資源としての御前崎港
をどう考えるか

答 クルーズ船の誘致を引き続き
行い、市内周遊による外貨獲
得可能なツアーを計画することで、
市内観光の活性化を図っていきます。

問 御前崎港を拠点にした遊漁
船への現地決済型ふるさと
納税制度の導入の考えは

答 この制度は納税する方が本
市を訪れた際に、その場で
寄附の申込みから支払いまででき
る制度で、市内経済の活性化につ
ながります。令和6年7月に説明
会を開催し、2社が登録事業者に
なりました。今後も登録事業者の
拡大に努めます。

問 取扱い貨物の増加策を問う

答 県西部を拠点とする企業に
トップセールスを行い、取
扱い貨物量の増加を目指します。

問 防災拠点としての御前崎港
の利用について伺う

答 港は災害時にも使える重要
なインフラと考えています。

県の計画では支援物資の輸送等が
計画されています。本市としては、
災害時の状況を予測する中で、防
災・減災の観点から、港の利用に
ついて丁寧な検討を進めます。

問 本市のゼロカーボンシティ
への取組の現状は

答 産業部門では補助金制度を
設けて省エネ機器導入を、
業務部門では公共施設で太陽光発
電設備の設置を、家庭部門ではク
リーンエネルギー自動車購入に対
する補助金制度等により省エネ・
再エネ機器導入を促進していま
す。

問 海岸の藻場の再生を通して
CO₂を吸収させるブルー
カーボン事業についての考えは

答 磯焼け対策は、南駿河湾漁
協を中心に、漁業関係者や
本市、牧之原市、吉田町による榛
南地域磯焼け対策推進協議会を組
織し、藻場の再生事業を推進して
います。本市でも、学術研究を取
り入れるなど積極的に藻場の再生
に取り組めます。

一般質問

- ・市職員の採用人事について



阿南澄男

問 令和5年12月開催の総務経
済委員会へ提出された資料
を見ると、今後数年で、部長、課
長職を担う職員の数が極端に少な
くなるのが分かります。解決策
は、民間企業では当たり前となっ
ている中途採用です。特に30歳代、
40歳代の中堅職員の中途採用を、
市役所も積極的に取り入れるべき
と考えます。特定の分野において、
深い知識や豊富な経験を持った有
能な人材、例えば建設経済部なら
土木施工管理技士や測量士、市民
生活部なら水道技術管理者や公害
防止管理者、健康福祉部なら保健
師や精神保健福祉士などの資格免
許を有した即戦力のスペシャリス
トを中途採用することです。市民
サービスの向上はもとより、若手
職員のレベルアップや負担軽減の
ためにも、市職員の中途採用を積
極的に取り入れる必要があるのだ
はないでしょうか

き事態であると認識しています。
職員の中途採用は、豊富な経験と
専門的知識を有する人材として、
即戦力で組織に貢献できることが
期待されます。

令和7年度の採用試験から、土
木職及び建築職の募集年齢条件を
これまでの30歳から40歳まで、保
健師などの専門職は35歳から40歳
までとし、幅広い年齢層を募集要
綱に定めることで、新卒者に限ら
ず職歴のある方などの人材確保に
努めます。

なお、年度途中における職員の
採用は、適正な採用試験の実施、
職務の継続性への調整や混乱のリ
スク、財政面などにおいても影響
を及ぼすと思われるので、難し
いと考えています。

市役所組織が正常な機能を継続
していくためには、時代に沿った
組織運営や業務の効率化を進める
ことも必要と考えますので、採用
人事は継続的に研究していきま
す。

答 年度途中における職員の退
職は、市役所の組織運営に
影響を与えることから、憂慮すべ